

ミライの芦屋を
聞いてきました



FUTURE



NOW



PAST

芦屋市の市民参画・協働アドバイザーであり、コミュニティデザイナーとして各地でワークショップなどを実践されてきた山崎亮さんに20年後の芦屋について語っていただきました。

クルマの自動運転技術と地域コミュニティ

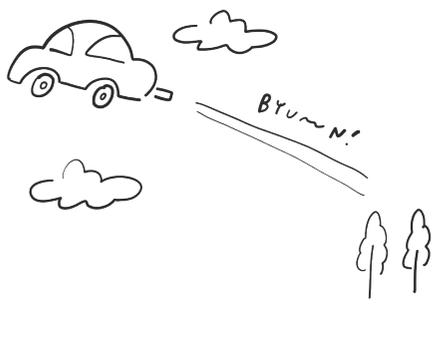
これからの20年のうちに、完全自動運転技術が確立するのではないかと思っていて、それが私たちの住む社会そのものにインパクトを与え、人々の暮らしがたやコミュニティのカタチに何らかの変化をもたらしていると思います。

完全自動運転技術により、極端に言えば、自分の部屋がそのまま移動できる空間になるかもしれません。次の日に東京で仕事があるとする、車の行き先を東京にセットさえすれば、部屋で自由に過ごしながら移動できるようになります。

オンラインでできることが今よりも増え、移動しなければならぬことが限られたとき、暮らし方がかなり変わることが予想されます。

住宅設計も変わってくるし、住む地域に対する考え方にも変化が生まれ、家族というコミュニティや、同じまちに住むということにどういう意味があるのかを問われることになります。

これからの20年間で大きな変化があるとすれば、1回目が令和2年のコロナ禍、次に自動運転技術だと思います。



2040

ミライのカタチ 山崎亮

芦屋市市民参画・協働
アドバイザー

テクノロジーがもたらす カンケイ

人口のポリウムとしては、団塊世代と団塊ジュニアが高齢者になる20年間なので、次の20年も高齢社会をどうデザインしていくかが引き続き課題となることは間違いないでしょう。

2020年から2040年の間はテクノロジーとともに、福祉の面は大きく変わっていかねければならないと思います。この期間をスマートに乗り越える施策が出せて、オンラインテクノロジーや自動運転技術が人々の生活に入り込んできたとき、地域コミュニティやみんなで社会を支えあうことが正しかったのかどうか、試される時代になっていく気がしています。

2040年を待たなくてもおぼ

がよくなるようになったけど、これまでではオフラインで集まることの欠点が見えないままやってきたのです。でも、これまでやってきたことの利点と欠点を見えるようにするには、むしろ新しいテクノロジーを意識して開発することが大切です。

コロナ禍で集まれなくなって、オンラインでワークショップをやるようになって大きな変化があったのは、参加者が若い世代になったことです。

今まで、どうやって若い人に参加してもらおうか一生懸命悩んでいました。SNSで呼びかけたり、オシャレなチラシを作ったり。

これまでとは違ったワークショップを始めると、若い人がたくさん集まるような状態が生まれたので、今後はオフラインとオンラインをどう

ちゃんたちがZOOMを使って3時のお茶会をはじめるとか、おじいちゃんYouTubeができて、おばあちゃんフォロワーがたくさんいます、なんてニュースが普通になってくるはずですよ。こんな人たちはハリが出てくるわけです。



家にいて誰かと簡単につながる事が当たり前になったとき、これまでやってきた地域包括ケアのような高齢社会の対策は、かなり考え直さな

使い分けるかを考える必要があり

す。もう一つには、今までワークショップに芦屋市出身の人が東京から新幹線や飛行機を使ってまで来ることはなかったけど、オンラインでワークショップができるようになり、そういった人たちが参加できるようになったわけです。「芦屋市出身です」「芦屋市にすごく興味があります」「芦屋市の〇〇のお店のパンが好きです」なんて人が遠くから参加するようになるんです。芦屋市との関係人口を集めて話し合うことができるようになったんです。すると「芦屋市のことを芦屋市にいる人だけで話し合えば良かったのか？」という疑問が生まれてきます。オンラインで集まると、芦屋市に愛着を持っている人が全国にどれだけ

新旧の対比で見える価値

オフラインで実際に人と会うことは、表情や空気感、熱量だったり、場の雰囲気や人に与える影響など、膨大な情報量を受け取れるブロードバンドみたいなものです。これはなくなったりしないでしょう。ただ、会わなければならなかった種類のうち、いくつかはオンラインに切り替わると思います。そうすると新たな価値が生まれることになります。逆に新たな価値との対比により、これまでやってきたことの価値がわかるようになると思います。

今まで、人が集まるワークショップを僕らもやってきたし、これからもやると思います。ただ、コロナの間に、ワークショップをZOOMと

かで見えてくるはずですよ。我々が2040年までに、話し合っ





山崎 亮 (やまざき りょう)

芦屋市市民参画・協働アドバイザー。studio-L 代表。コミュニティデザイナー。社会福祉士。

大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士(工学)。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年に studio-L を設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。

ミライに向けてイマ
できること

これまでは経済的な面の価値観が重視されてきました。だから「GDPを上げなければ」とか「人口を増やさなければ」ということに翻弄されて1週間のうちに5日間も働くという社会を生きているわけですね。

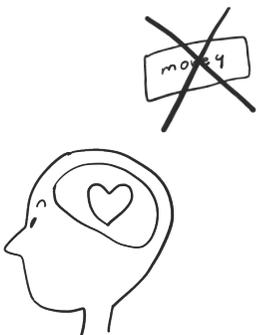
だけど、その価値を根底から揺るがすようなテクノロジや社会がやってきたとき、我々が幸せに暮らしているかと思うたら、いったい何に重心を置くのか、僕らは人生において何を大切にしなければならぬのか、教育の中でも明示されています。

今はサービスを買って楽しむとか、お金を出して楽になるとか、そのた

めに一生懸命働いて、お金を貯めるという仕組みで経済や税収が回っているけど、そこから脱落するような事態が起きてくるでしょう。

かつての意味のない煌びやかさはどんどん剥げ落ちて、無駄なものが削ぎ落とされていく20年になる気がします。だけど、それでいいと思います。

経済をうまく縮小させて、心を含めてどう豊かに生きていくのか、本当の豊かさとは何かということを理解して、自分自身で楽しいことを生み出すことができるかどうかが問われることとなります。その意味で教育は変わらなければいけないと思います。



受験で覚えることは全部デバイスに入っている、だからもつとクリエイティブなことに頭を使おうと、当然そうなってくるでしょう。人間が頭を使ってやるものが変わっていくときに、本当の豊かさが何かというところが、ちゃんとみんなにインストールされていれば、社会が成立すると思います。

自分と家族と周囲の人たちが楽しいと思うような、そんな圏域を作っていくだけのお金を見据えたら、あとはお金を使って誰かに楽しませてもらうことをやめるマインドさえあれば、買わなくても楽しいというマインド、気持ちを手に入れることができます。楽しさを自給できる能力、自給力を高めることです。

世界における日本の存在感を増すために、僕らは一生を捧げているわけではないはず。僕らは一生が楽しくて幸せになるために生きているわけだから。



取材場所提供

Y's café

〒659-0087
兵庫県芦屋市三条町 33-8